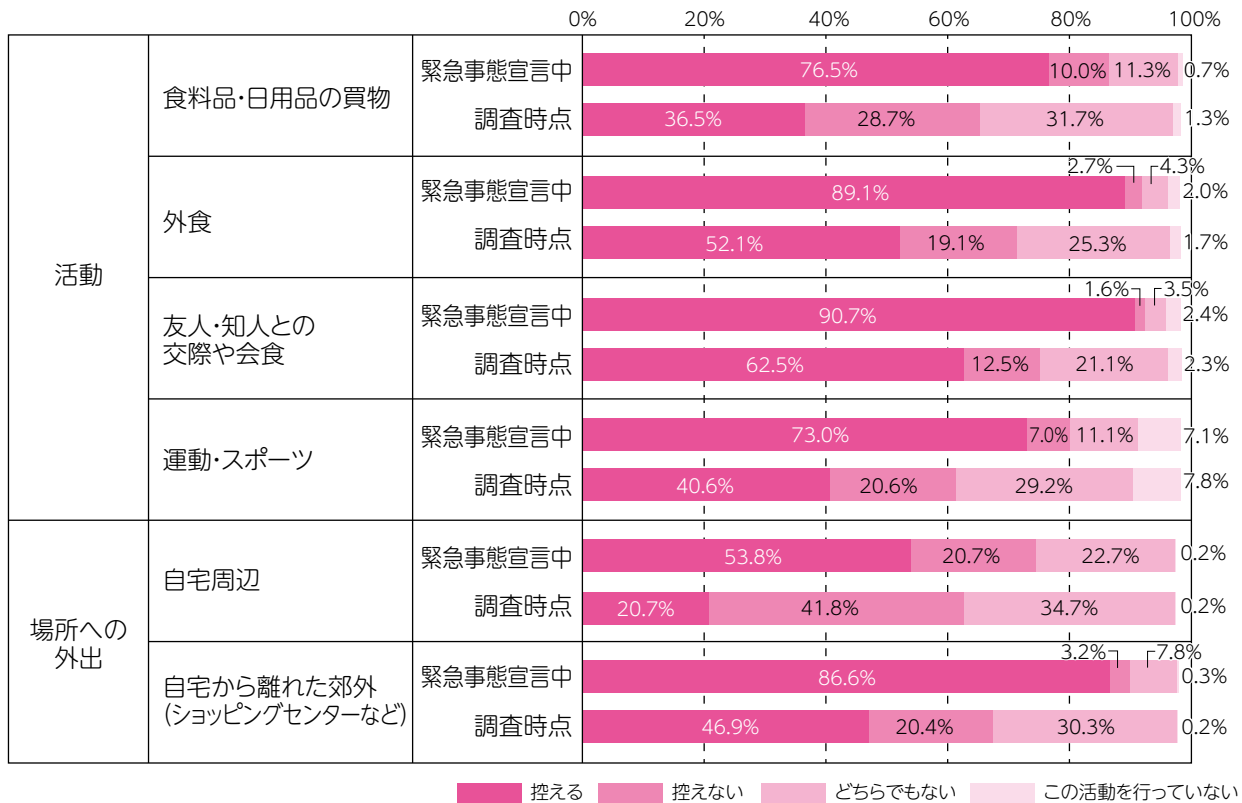


●新型コロナウイルス感染症の影響●

コロナ禍における「活動」や「場所への外出」への意識の変化

市民

「活動」については、緊急事態宣言中（令和2年4月16日から5月13日まで）ではそれぞれの項目で自粛を意識した人が7～9割程度となっています。また、調査時点（令和2年11月ごろ）で自粛を意識した人については、「食料品・日用品の買物」や「運動・スポーツ」は4割程度、「外出」や「友人・知人との交際・会食」は5～6割程度となっています。

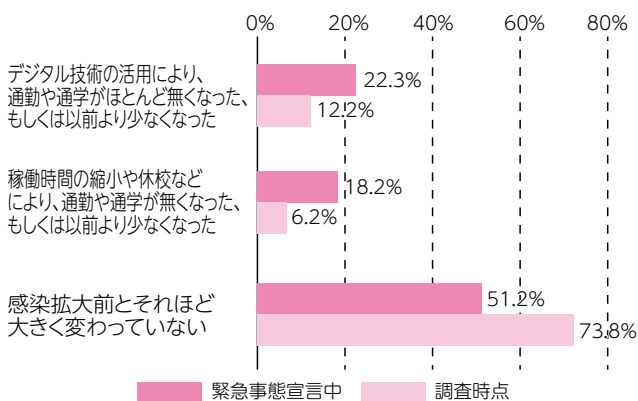


コロナ禍における行動の変化

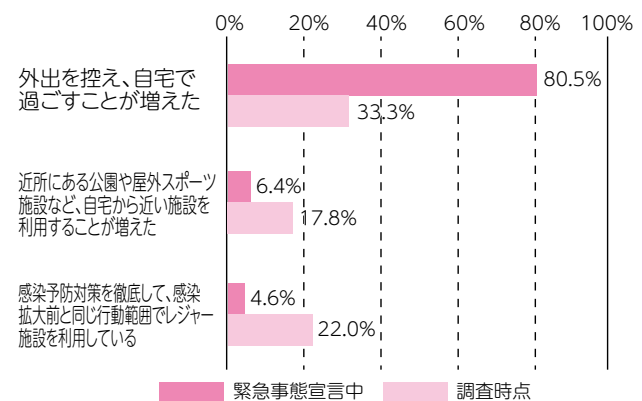
市民

調査時点では、テレワークやオンライン授業などにより通勤通学がほとんど無くなった、もしくは少なくなった人が1割程度となっています。また余暇を自宅で過ごすことが増えた人が3割程度となっています。このほかにも「食事」、「感染症情報の入手方法」、「代金の支払い方法」、「コロナ禍での困りごとや不安」などを調査しています。

「通勤や通学」



「余暇の過ごし方」



このほかにも市政に対する要望やアイデアなどさまざまなご意見をいただきました。今後の市政に反映できるよう努力を重ねていきます。

※このアンケート結果の詳細「市民生活の現状及び児童・生徒の意識や行動に関するアンケート報告書」は、市役所情報コーナー、中央図書館、富士松図書館、市HPで見ることができます。



▲市HP